建協主催で土木フェスタ

体験型イベント満載

建設業に触れて、感じて、楽しんで。県建設業協会（川畑俊彦会長）主催の「2016土木フェスタinマリンポート」が20日、鹿児島市のマリンポートかごしまで行われた。約2500人もの多くの家族連れが訪れ、展示ブースや試乗体験などを通して公共事業の果たしている役割や土木の魅力を堪能した。

子供たちに大好評だった重機試乗体験＝鹿児島市のマリンポートかごしまで

これまでは、建設事業イメージアップ連絡協議会の主催によってJR鹿児島駅隣接地で開催していたが、会場が上町ふれあい広場「かんまちあ」整備に伴い使用できなくなったことから、2年ぶりに場所を移して建協主催で初めて行われた。後援は、同連絡協議会、県建設技術センター、県港湾漁港建設協会、鹿児島建設新聞など。

オープニングセレモニーでは、川畑会長が「業界のイメージアップと将来の担い手確保・育成に寄与するため、多彩なイベントを用意した。家族みんなで楽しんでいただきたい」と挨拶し、関係者がテープカットを行った＝写真＝。

会場内で子供たちに一番の人気を博していたのは重機試乗体験コーナー。ミニ油圧ショベル（3台）、フォークリフト、高所作業車（2台）には長蛇の列をなし、子供たちはオペレーターの補助を受けながら実際にレバーを握り、重機が動くたびに「わーすごい」と歓声を上げていた。最終的には1000人を超す子供たちが重機を堪能したほか、9月に未来技術遺産に登録された「三菱ユンボY35」も展示（協力：建機ミュージアム）され、来場者の関心を引いていた。

また、土石流模型で砂防ダムの必要性をアピールしたり、液状化等の模型やレンガ橋作成、橋梁ペーパークラフト制作など子どもが楽しめるイベントが満載。足湯トラックや土木パネル展、幼稚園児のマーチング、ぐりぶーダンスショーなどもあり、会場内は終日にぎわいを見せた。

建協各支部も出展

趣向凝らし触れ合う

会場内には建協各支部（鹿児島、谷山、加世田、指宿、日置）も趣向を凝らしたブースを出店し、来場者と触れ合っていた。

鹿児島支部は「世界の建設機械ミニチュア展」と称してバックホウやブルドーザーなど建機ミニチュアを展示。加世田支部は大根とくりこがね芋（1袋約10個入り）をそれぞれ破格の100円で提供した＝写真＝。また、指宿支部はおもちゃのショベルカーでのお菓子つかみ取り、日置支部は地元焼酎などドリンクを提供、谷山支部は谷山が発祥地である「両棒餅」を提供した。

測量設計関連団体

カレンダーを贈呈

県測量設計業協会、県建設コンサルタンツ協会、県地質調査業協会、日本補償コンサルタント協会県支部は、測量体験や写真入りカレンダー作成、姓名判断占いなどを実施＝写真＝。

特に写真入りカレンダーは測量団体らしく、15mもの区間を歩いてもらって歩幅の平均値を割り出し、「私の歩幅は○mです」との用紙を持たせて写真を撮影。半年分のカレンダーにしてラミネート加工しプレゼントした。

豪華客船も来港

巨大船に圧倒

イベント中にはマリンポートに10万t級の豪華観光客船「コスタ・フォーチュナ」も来港＝写真＝。全長272mで、3000人もの船客を乗せた客船が港に着岸。来場した家族連れのみならず、イベントに参加した建設業関係者も、圧倒されるほどの巨大客船と港に迫ってくる様子をしばし堪能した。

鹿工高生

測量実習を披露

第15回高校生ものづくりコンテスト県大会の測量部門で最優秀賞に輝いた鹿児島工業高校2年の木佐貫隼人さん、北村健真さん、七村空駿さん＝写真＝が参加した。

3人は会場内で建協が贈呈したトータルステーションを使った測量実習を披露。残念ながら全国大会出場を逃した悔しさをバネに「来年は絶対に全国大会出場を果たしたい」と意気込みを語った。

建設業の魅力発信

奄美支部も同時開催

県建設業協会奄美支部主催の「2016土木フェスタinあまみ」が20日、奄美市の名瀬港長浜観光船バースであった。市内外から来場した約5000人の家族連れらに、重機試乗などを通して建設業の魅力を発信した。

重機体験コーナーには、約500人の子どもが参加＝写真＝。一番人気のパワーショベルやタワーリフトなどに乗り、会員らの指導の下で砂利をすくうなど運転を楽しんだ。試乗のあとは記念写真やミニチュア重機のプレゼントを受け取り、初めての体験を満喫していた。近くでは光波測距器による距離当てクイズも行った。

「おしごとテーマパーク」と銘打ち開いたイベントでは、土木フェスタのほか奄美市主催の「わらぶっくわ横町」もオープン。子供たちは自衛隊やあまみFM、フラワーショップなどの各ブースで、DJや制服試着などそれぞれの仕事体験を楽しんだ。県大島支庁建設部は土砂災害模型実験で災害の怖さや公共事業の必要性をアピールした。

このほか、ステージでは歌やダンス、腕相撲大会などを開催。巨大重機やパトカー、自衛隊車両、海上保安庁巡視船、ドクターヘリなども集結し、子供たちの目を奪っていた。

会場内では県建設業青年部会奄美支部会員や協力企業者らが対応にあたった。永田彰弘支部長は「子供たちのたくさんの笑顔が見れて良かった。これからもさまざまなイベントを通して建設業を広くアピールしていきたい」と話した。

参加

設営・片付け

大島高生

大島高校生徒が昨年に引き続き、会場設営や撤去作業に協力参加した＝写真＝。ボランティアとして参加したのは、同校野球部40人、バレー部15人、ラグビー部20人。生徒らは県建設業青年部会奄美支部会員らとともに、テント組み立てやイス設置のほかイベント終了後の片付けなどに汗を流した。2年続けて参加した野球部キャプテンの濱田雄一郎君は「父が造園業を営んでおり、日ごろから建設業には関心を持っていた。将来の目標は決まっていないが、選択肢の一つとして考えたい」と話した。